



受賞の報告をする様子

フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2025受賞を町へ報告

七立栗生産組合が出荷している枝物の「七立栗」が、「フラワー・オブ・ザ・イヤーOTA2025」で最優秀賞を受賞しました。これを受けて、昨年12月22日(月)、同組合の矢野史明代表ら3名が町長を訪問し、受賞の報告を行いました。

同賞は、国内最大級の花き卸売会社である(株)大田花きが、2025年に流通した花きの中から、流通性や品質などを総合的に評価し、優れた花きを表彰するもの。

矢野さんは、「受賞を知ったときは驚いた。これまで頑張ってきたことが認められたと思う。さまざまな課題がある中でも、七立栗は地区の宝なので、引き続きいいものを作っていきたい」と今後について話しました。



長手巻き寿司を作る児童ら

田ノ口小学校で食育活動

食育活動の一環として、農業委員会とJA女性部の共催による、地元食材などを使った長手巻き寿司づくりが、昨年12月12日(金)に田ノ口小学校で行われました。今回は、同小学校が今年度をもって休校となることから、同小児童5名をはじめ、関係者や保護者、あったかふれあいセンターの利用者、大方高校生など多くの参加者が集まり、全長19.1mの長手巻き寿司を完成させました。

同小6年生の有友日葵さんは、「3年生の時に作った長手巻き寿司よりも、今回はさらに長い巻き寿司ができて嬉しい。いもを丸めていもの茶巾絞りも作った。寿司は具がたくさん入っていて、美味しかった」と話しました。



漂流した場合の対処方法を学ぶ児童ら

南郷小学校で水難事故防止・防災学習

昨年12月11日(木)、南郷小学校で水泳学習や日常生活における水の安全についての理解を深めることを目的に、水難事故防止・防災学習が実施されました。同学習では、水の事故について動画を見ながら学んだ後、ライフジャケットの正しい着用方法や、事故に遭った際の対処方法について学びました。

児童らは、「離岸流について知ることができた」、「もし流されたとしても焦らず対応したい」と話し、講演を行った、(公財)日本ライフセービング協会の松本貴行副理事長は、「ただ恐れるのではなく、対処方法を知ることや未然の防止が大切」と話しました。



人形劇を観る園児ら

「劇団すぎのこ」人形劇公演

1月7日(水)、大方中央保育所で、町内の保育所に通う3歳から5歳までの園児139名を対象に、「劇団すぎのこ」による公演が行われました。

同公演は、劇を通して登場人物や他者の気持ちを想像し、自分の考えを表現する力を育むことを目的に行われ、園児らは絵話や人形劇を楽しそうに観ていました。

園児らは、「初めて見たけどすごかった」、「面白かった。また見たい」と楽しそうに話しました。同団体の星野翼さんは、「昔話や民話を広げるために活動をしている。子どもたちが元気いっぱいに対応してくれて、嬉しかった」と話しました。